

〜 棚原グスクを歩く 〜

一月のある晴れた日に、棚原グスクを歩きました。

棚原公民館で棚原老人会のみなさんに地名のお話をうかがっていたところ「現地に行ってみなくちゃ、わからないよ。」ということになり、さっそくグスクへ。

棚原グスク一帯の丘陵には石灰岩がみられ、ジャール土壌（新第三紀シルト質泥岩）の広がる西原平野と比べると、自然環境や集落の立地などに違いがみられます。

棚原グスク北側の崖下には、墓地群が広がっています。その中でもいちばん高い場所に、棚原グスクに居住していたとされる棚原按司らをまつた墓があります。ここは、棚原集落の人々によって拜まれてきました。棚原の墓は、石灰岩を使って造られており、平野部にある珊瑚石灰岩で構築された墓とはその材質が違います。

また、同じ北側崖上には、ニライカナイへの拜所があるかと教えていただきましたが、道が険しくそこまでたどり着けそうもありません。

この北側からグスク頂上へ登るには、大きな石灰岩の裂け目を通るのですが、その空間は、「ワカリジ」（別れた地）」と名付けられているとのこと。大きくそそり立つ岩の間は、幻想的な雰囲気。そして周囲には、

岩陰に石を積み上げた古墓が点在しています。まるで、はるか昔にタイムスリップした気持ちになっていると、あちこちに構築された陣地壕の穴を見て、現実を引き戻されてしまいました。そう、ここ棚原グスク一帯は、沖縄戦当時、激戦が繰り広げられた場所でもありました。「また新たな壕の調査をしなくては」と思いつつ、険しい岩場を登ると、グスク頂上部にある殿と呼ばれる平場に出ました。ここでは、今なお棚原集落の祭が行われています。棚原集落から殿へ登る坂道は「神道」と呼ばれ、祭の日にはノロ以下神女たちがこの道を通ったのだといえます。

殿の周辺には、「中山の井戸」「中山の墓」「中山の御嶽」と呼ばれている聖地があります。この「中山」の意味はよく分かっています。

せんが、もしかしたら三山（北山・中山・南山）分立の時代、ここ棚原グスクは時の中山王と何らかの関わりがあったのかも知れません。

棚原グスクには、人々の信仰の対象となる聖地や古いお墓、また沖縄戦当時の陣地壕が混在しており、それらを目の当たりにした時、グスクの歴史が肌で感じられるのです。

今回グスクを案内していただいた伊波精吉さん・伊波喜恒さん・城間正雄さんには大変お世話になりました。3人とも急な岩場もスイスイと登っていくので（しかも喜恒さんはそうりでした）、ついでいくのがやっとでした。いやはや、みなさんの若さに脱帽。



石を積み上げた古墓で「キサの墓」と呼ばれている。